

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570600355
法人名	医療法人 杏林会
事業所名	グループホーム みみつ
所在地	宮崎県日向市美々津町3870番地 (電話) 0982-58-0311
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費4,500 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三股病院 三股病院歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道10号線沿いに位置しており、ホームの広い庭からは海が一望できる。同敷地内に母体病院があり、昼夜問わず受診や往診がしてもらえる。ホームの屋内は明るく、共同空間には上り框や掘りごたつがある。全居室畳敷きにベットが置かれている。利用者個々に職員の担当が決められており、一緒に室内を片付けたり、話を聞いたりして喜怒哀楽を共にしている。全職員が優しく明るくて、生き生きしているので、それが利用者につながるのか、利用はゆったり、楽しく自由に安心した日々を過ごされている様子が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で取り組みの指摘があった「運営推進会議」は開催しているが、定期的な開催には至っていない。市町村との連携は残された課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングや職員会議の意見を基に、管理者、それぞれのユニットの主任で検討し、自己評価のまとめをしている。まとめた結果は、職員に報告している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年12月以後開催されていない。早い時期に開催して今回の自己評価、外部評価の結果を報告し、意見等をもらってサービスの向上に活かしてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見・苦情・不安等も話しやすい雰囲気作りに配慮して、どんな小さなことでも真摯に受け止め、運営に反映するよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会、老人会には加入していないが、時折地域の祭りやそば打ちなどの行事に参加したり、地元のボランティアとお花を生けたり、歌や踊りを一緒に楽しみ交流することに努めている。また、認知症対応デイサービスには、午前午後数名の利用があり、その利用者、家族を通しての交流も日常的に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく、生命、尊厳、個性を尊重し、地域に開かれ共に歩むグループホームを目指す。」 ーグループホームみみつが独自に作り上げた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	あらゆる機会をとらえて常に話し合い、職員全員で共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会は加入していないが、時折地域の行事に参加したり、地元のボランティアとお花を生けたり、歌や踊りを一緒に楽しみ、交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が評価の意義や目的を理解している。自己評価については、職員から気付き・情報提供を受け、管理者と主任が作成している。外部評価の結果については、全員で話し合い改善に取り組もうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	目的は十分理解されているが、平成18年以降諸々の事情があつて、3回しか開催されていない。	○	「どこにも負けないホーム作り」をする為にも、2か月に1回の会議を開催し、メンバーで話し合い意見を聞いて、サービスの向上に活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来するチャンス作りがなかなかできない状況にある。	○	家族向けに発行しているホームだよりや通信などを送ったり、運営推進委員をお願いしたり、また市からの情報を流してもらったりして、お互いに連携とともにサービスの質の向上に取り組んで欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、または必要に応じて電話、手紙で利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな意見・不満・苦情でも真摯に受け止め、運営に反映させている。 (家族のアンケートのほとんどがよく聞いていると回答している)		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の中での研修は定数ぎりぎりの職員なので、参加することは難しい状況にあるが、母体病院内での研修が随時行なわれているので、それらへの参加を積極的に勧めている。	○	運営者は職員育成の重要性を理解して、職員が研修や会議に参加できるよう柔軟な勤務ローテーションを組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎月日向地区グループホーム連絡会に参加して、勉強会や情報交換を行なって交流を図り、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一日入居体験や見学をしてもらって、納得してからサービスを開始している。また認知症対応通所介護の利用から入居になるケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々に職員の担当者が決められていて、居室内の整理整頓を一緒に行ったり、いろいろな話を聞いたり教えてもらったりして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情の中から暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者からは常に、家族からは面会時に要望等を聞いて、月1回のミーティングで話し合い、利用者や家族の意向も十分反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行なうと共に、変化が生じた場合は実情に即した介護計画を作成している。		状態に変化のない場合にも、月に1回は新鮮な目で見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成19年4月よりホームの中に通所介護を開設し、3人が毎日利用している。個別対応することによって、精神的な落ち着きが見られる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの母体病院がかかりつけ医になっているので、昼夜を問わず受診し、また往診してもらえる。母体病院に診療科のない精神科等の受診については、家族と職員が一緒に同行し支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や面会時に重度化した場合の意向を聞いて、本人、家族、かかりつけ医、職員と十分な話し合いをし、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしく」利用者が自由に自分のペースを保ちながら希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・後片付けなど一緒に行なって、職員も利用者と同じ食事を食べ楽しんでいる。食べ方の混乱や食べこぼしなどにたいするサポートをさりげなくしている。個人の志向に合わせたメニュー作りもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2時から4時の時間に寛いだ入浴ができるように支援している。利用者は入浴が好きで、めったに拒否する利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人が楽しみごとや出番が見い出せるよう場面作りなどの支援を行なっている。(食事の準備、後片付け、洗濯物のたたみ、掃除、草むしりなど)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭で海を眺めながら散歩したり、家庭菜園の草むしりをしたり、希望によってドライブや外食に出掛ける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室や玄関には鍵を掛けていないが、玄関はセンサーで対応している。(騒音には感じない)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団の協力を得て、年2回の避難訓練を行なっている。消火器や避難路の点検を随時行なっている。非常用食料も準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事・水分の摂取量を記録し、把握している。時々管理栄養士から助言指導を受けている。 朝の起床時、3度の食事時、寝る前にそれぞれ180cc前後の水分を補給している。好みによってコーヒー、牛乳、ジュースなどを選択できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングには上り框や掘りごたつ、ソファ、テーブル、テレビが置かれ、利用者が一人でまた気の合った利用者同士で自由に過ごせる心地良い場所作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きの上にベッドが置かれていて、居室の面積が12,5㎡と広いので、家族と一緒に泊まることも可能である。居室には我が家で使い慣れたたんすや鏡台、生活用品が持ち込まれてゆっくり安心して過ごせる雰囲気を感じられる。		